



5月に入るとエルミタージュのバルコニーでは薔薇が次々と咲き始め、いい香りを放ち、色と形を変えながら、目を楽しませてくれました。

荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ
砂漠よ、喜び、花を咲かせよ



野ばらの花を一面に咲かせよ。(イザ 35:1)



薔薇の花を愛でながらも、どうしても心が軽ならず、目がしっかりと開かず、手に力が入りません。それは妹が病の床にあり、厳しい状況にあるのに、私は何も手助けできないからでした。自然の命の輝きが、霧や靄がかかって、涙と共に見えてくるからでした。



玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、
命の水の泉へ導き、
神が彼らの目から涙をことごとく
ぬぐわれるからである。(黙示録7:17)



人間の弱さを憐れみ、共に涙を流し、助けてくださり、永遠にイエス様と共に生きられる命の泉へと導いて下さることを信じ、イエス様に呼びかけながら、私は日々を過ごしています。愛する妹は苦しみや痛みを耐え、病と闘いながら、イエス様に守られ、また私たちの祈りを感謝していると言います。



今日、28日は夫の6クールに渡る治療がすべて終了し、徹底的な血液、CT 検査の結果を告げられる日でした。この日を待ち続けていました。主治医は「治癒しました！」と言って下さいました。年齢の割に厳しい治療法を取り入れて、それに耐えて、今日を迎えられたことを共に喜んで下さいました。今後、3月毎の定期検診になります。感謝と喜びで一杯です。残りの日々をも、導いて下さることを信じ、祈っています。

